

卵子提供、養子縁組に関する情報提供時期の検討 —患者アンケート結果から—

A study of the timing for providing information of egg donation and adoption obtained from patient's questionnaire

佐野 郁美、関藤 由佳里、杉本 朱実、西原 卓志、森本 義晴

HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

晩婚化に伴う患者の高齢化により、不妊治療が長期となる例も少なくはない。治療を行っていく中で、一つの選択肢として卵子提供や養子縁組の情報提供を行う事がある。しかし、情報を知らないまま治療終結を迎える患者もいる。そこで今回、不妊治療中において、卵子提供、養子縁組に関する情報提供を行う必要性と時期を検討する。

【方法】

2018年4月20日から2018年5月11日までの期間において、当院に来院された患者にアンケートを配布した。アンケートには個人は特定しないこと、目的以外では使用しないこと、回答は自由意志であることを文章に明示し同意を得られた患者のみ調査を行った。

【結果】

配布は64名に行い、59名から回答が得られた（回収率92%）。不妊治療中に卵子提供、養子縁組の情報は必要だと思うか？については、71%がはいと回答した。この項目ではないと回答した患者の内、情報はいつ得られるのが望ましいと思うか？に対しては、医師が必要と感じた時が一番多く（60%）次いで初診時（28%）であった。卵子提供、養子縁組のパンフレットが院内に設置されていた場合に抵抗を感じるか？については91%がいいえと答えた。また、卵子提供、養子縁組の案内が診察時に個別である場合、抵抗を感じるか？について25%がはいと答えた。

【考察】

不妊治療において卵子提供、養子縁組の情報提供は、約7割が必要と回答され、「なかなか妊娠できない時に、他の方法もある事を知っていた方がいいと思う」という意見から、情報提供ができるシステム構築の必要性を感じた。しかし、個別での情報提供については、「妊娠の可能性を否定されたようでショックを感じる」という否定的な意見と、肯定的な意見の中にも「案内をする時期にもよる」「受け入れなければいけない」という意見があった。個別での情報提供は患者自身の気持ちに沿いつつ慎重に行うことが必要である。同時に、院内にパンフレットを設置する事に関しては、約9割が抵抗はないことを踏まえ、患者が自ら情報を得るタイミングを選択できるよう、不妊治療施設では積極的に院内に設置すべきと考える。